京都観光アカデミーアワード　発表レポート

福知山公立大学 杉岡ゼミ（クエスチョンツーリズム班）

クエスチョンツーリズム — 問いが見つかる新たな地域観光の形

受賞：問いをTOYに賞

■ 発表概要

公共政策専門の杉岡ゼミが、綾部市「小谷プロジェクト」での約2年間の実践活動から得た学びをもとに、「答えではなく問いが見つかる観光」＝クエスチョンツーリズムを提唱した。

■ ちいたにとは

概要

・正式名称：「小さな谷の小さな暮らし」
・綾部市志賀里地域で開催の年間プロジェクト
・田植え・収穫祭など農業体験が中心
・月1回開催・1回あたり約40〜50名が参加
・京都市・大阪在住者も参加（今年度で終了）

なぜここで学んだか

・「問い」をキーワードにしたプログラム
・「生きるって何？仕事って何？」という問いを大切に
・農体験を通じて答えのない問いを考える機会が生まれる

■ クエスチョンツーリズムとは

答えは見つからないが、問いが見つかる観光。疑問が生まれ、記憶に残る旅の経験を指す。

■ 3つの核心要素

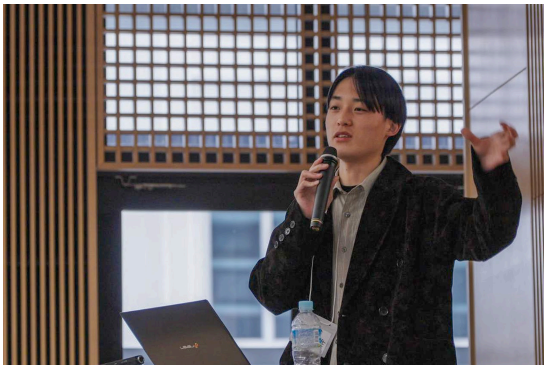
【環境確保】現場に出て地域の雰囲気から感じる：交流・つながり・その土地の空気感
【キーパーソンから学ぶ】人の背景によって同じ問いへの答えが変わる。観光資源が少ない地域でも、人の多様性で豊かな場づくりが可能
【問いから考える】答えのない問いは否定されない。だからこそ記憶に残り、地域への肯定感につながる。

■ ツアー案（ちいたにを活用したクエスチョンツーリズム）

・綾部市・志賀里地域を中心に里山の農体験（ちいたに）
・ツアー中にで「問いから学ぶ・考える・交流する」時間を設定

■ 期待される効果

・目立った観光資源がなくても、人の個性で多様な場づくりができる
・否定や不正解がない学びが地域への肯定感を育む
・一生涯考えられる問いを持ち帰ることで、関係人口・継続的関わりへつながる
・すでに「商品化してみませんか」という実際のオファーあり

■ 審査員コメント

「答えがなくても問いを持ち続けることを大切にする視点が新鮮。地域の人の誇りを引き出し、共に未来を考えるあり方は地域観光の重要な視点」（工藤審査員）